

二子玉川エリアマネジメント新聞

第8回二子玉川エリアマネジメントシンポジウム特集号

第8回エリアマネジメントシンポジウムで都市再生推進法人の新たな取り組みを報告

5G技術と新しいシンポジウム形式について議論

第8回エリアマネジメントシンポジウムが開催され、一般社団法人として、都市再生推進法人の第1号に認定された団体が、多摩川河川敷のオープン化や、協力企業とのボランティア活動などを展開したことが報告された。今回のシンポジウムでは、新たなカルティバの方針などについて議論する予定だ。特に今年度は5G技術を取り入れたプロジェクトや新しいシンポジウムの在り方について実験的に取り組む予定で、参加者からの質問も大いに期待される充実した時間が予測される。

平日勤務の皆さんが、この土曜日だけのために集まってくださるのは本当に大変だと思いますが、わざわざお越しいただき、ありがとうございます。また、保坂区長や村副区長、嶋崎京浜河川事務所長、宮本横浜国道事務所長も、お忙しい中、わざわざお越しいただき、ありがとうございます。そして、突然の来賓の渡辺副会長も、お越しいただき、本当にありがとうございます。たくさんの方々に感謝いたします。



一般社団法人二子玉川エリアマネジメント 佐藤正一代表理事

当団体のエリアマネジメントシンポジウムは、今回で8回目になります。通常は2月に開催していましたが、年度末での活動締めと来年の方針策定のための作業期間が短く、手薄になってしまうことが多かったため、時間的に6月に変更することにしました。事務局の方々が検討した結果の決定です。

2019年までの4年間は、産みの苦しみもあったものの、皆さんの関係者が力を合わせて団体を立ち上げ、活動してきました。最初は認知度が低く、我々自身が取り組んでいくことで団体を確立してきたというのが、この4年間の背景でした。そして、2019年に一般社団法人として法人化した世田谷区の方々は都市再生推進法人の第1号として指名されることになりました。この指名は非常に先進的なものであり、誇りに思っています。

整備計画を提出していただいた翌年には、京浜河川事務所の方々から、多摩川の河川敷のオープン化と専用主体の指定をいただき、更なる活動を展開してきました。地元の方々の協力を得ながら、様々な活動を行ってきました。例えば、橋脚の落書きの清掃活動や、水辺と道路のボランティアサポートプログラムを、我々を含めた4つの会社が一緒に、地元をきれいにしてほしいと活動しています。この4年間は、コロナがあったことや築堤の整備などもあり、コンディションは思わしくなかった時期でしたが、ここにいるメンバーや活動してくださった皆さんの力によって、いろいろな活動をやり遂げることができました。一方で、この4年間の経験を踏まえて、今、この3段階目に入った時期に、今年度以降のエリアマネジメントの立ち位置や存在の形を考えています。後ほど事務局のメンバーの方から今年度の活動について詳しく説明します。今日は西村先生や萩野さんと一緒にさまざまな議論をする予定です。会場では毎年行われている100人会議システムを運用しており、今年

要約すると・・・

- 二子玉川エリアマネジメントシンポジウムの挨拶。佐藤正一が代表理事を務める一般社団法人であること、会の歴史や法人化、指定団体としての活動などを振り返り、今後の活動方針についても今考えている段階である旨を述べた。
- 二子玉川シンポジウムで、100人会議システムを使用して、新しいシンポジウムの運用方法を実験的にトライする予定。カタリスト BA そのものの役割もこれで終わり。世田谷区長が河川敷の活用や、二子玉川のエリアマネジメントについて話し、新しい街に価値を作り出すための本格稼働に期待をしている。
- 国土交通省関東地方整備局の、京浜河川事務所所長と横濱国道事務所所長からの挨拶がありました。京浜河川事務所は多摩川の整備管理をしており、利用や地域活性化に注目しているとのことでした。一方、横濱国道事務所は道路管理や橋梁管理で、二子玉川エリアマネジメントに協力していると述べられました。

「世田谷区」二子玉川に匹敵する魅力的なエリアを目指す街づくりの取り組み進行中 無堤防解消工事や下北沢の住民参加型街づくりなどで新たな価値創出



世田谷区長 保坂展人

世田谷区では、二子玉川に負けない魅力的なエリアを目指し、街づくりの取り組みが進められている。過去には2019年の第1号台風が大きな試練となり、無堤防地域から水が出て被害があった。しかし、国土交通省へ被害回復の要望を通じ、無堤防の解消工事も進行中である。今年度の花火大会も実施されるそうだ。エリアマネジメントの活動が本格化し、活動資金も年出している。新しい街に価値を作り出している。下北沢では線路上部やガード下が完成し、住民参加型街づくりの運営体制が形成されつつある。世田谷区行政も二子玉川での活動に期待を寄せ、積極的に関与している。

多摩川整備管理における地域活性化と利用方法の重視

鳥嶋晃博所長が語る危険回避の取り組みとイベント両立の調整。

国土交通省関東地方整備局景品河川事務所所長、鳥嶋晃博氏は、多摩川の整備管理を担当しており、治水だけでなく環境や利用も重視し、地域活性化や利用方法を心配っているとの説明。1年間に危険な場面は少ないため、365日のうち300日以上は地域の方々に利用してもらうために取り組んでいく考えだと述べた。二子玉川地区の工事や花火大会など、地域イベントの両立を調整中。

横濱国道事務所宮本氏、二子玉川エリアマネジメントとの連携に感謝

横濱国道事務所の宮本氏は、8回目のシンポジウムで挨拶し、二子玉川エリアマネジメントと国道246号線の道路管理・橋梁管理での連携に感謝の意を示した。昨年の協働部の落書き対策での連携が成功したことも特筆し、今後もさまざまな形で連携できることを願っている。シンポジウムが参

要約すると・・・

- 2023年度の活動方針について説明される前に、二子玉川エリアマネジメント団体の歴史が振り返られた。2015年以来、エリアマネジメントに関する認知と理解を広げる活動を行ってきた。2019年からは事業の幅と規模を増やし、2023年からは川のエリアマネから、町のエリアマネへの転換を目指し、町での活動に積極的に取り組んでいく予定。また、街のビジョン作りや街の活動支援、オープンな運営の実現を目指し、地域との連携を深めた組織体制を整備していく計画。



今回のシンポジウムにご登壇いただいたみなさま (撮影: 人間の取材班)



会場のカタリストBA(二子玉川ライズオフィス8階)は満員御礼でした!

二子玉川学会: 福祉研究と地域活性化のためのコミュニティで東京オリピックとユニバーサルデザインへの取り組みを発表

二子玉川学会は、福祉に関心のある人たちが研究成果や新しいアイデアを共有し、地域活性化に貢献している。同学会では東京オリピックを話題に、年に一度、渋谷を起点にパリンピックを含めたユニバーサルデザイン取り組みを発表。また、毎月テーマを発表し、幅広い分野で成果を共有。都市大学夢キャンパスで発表会を開いてコミュニティを築いている。今後は都市研究に特化し、サポートと指導を募りつつ、更なる成長を目指す。参加者たちは、新技術を自身のテーマに取り入れ、価値創出を学んでいる。

5Gプロジェクトと生成系AI「ChatGPT」を活用したイベント紹介、コミュニティ運営プラットフォーム「テレポート」とともに地域活性化を目指す

ビットメディア代表取締役社長の高野雅晴氏は、東京都の支援事業により取り組んでいる5Gプロジェクトや、生成系AI「ChatGPT」を用いたシンポジウムでの実験について紹介。5G技術を活用したスタートアップ支援イベントが開催され、二子玉川エリアでの成功事例が報告された。また、自治体との協力によるサッカー教育プロジェクトや、オンラインイベントでのインタラクティブなコミュニケーションが実証された。今後もエリアマネジメントと連携し、地域活性化を目指すとの声明があった。

研究室が人流観察と舗装変更で交流スペースを創出: 定点カメラ・モバイルパークレット・地元活用プロジェクト

実験的なフィードバックを活かし、私たちの研究室は定点カメラで人流を観察し、重機が置かれた場所での会話や飲食が増える変化を発見。また、未使用の価値ある本を昭和女子大学やヤマハと共同で地元で活用、親子連れが交流を深める場を提供。さらにモバイルパークレットを活動の一端として設置し、歩車道利用の空間を作り出している。舗装変更による道路空間の活用も図り、学生が交流のため屋台を出したり、手作りアクセサリを並べる活動も展開。今後も道路での交流を実験的に広げていく考えだ。



国士館大学 理工学部理工学科 准教授 西村晃彦

注: 西村先生の時点で印刷などの時間を考慮し以降記事になっておりません